



「蝶に魅せられて」

生涯生物部！高校部活の 気持ちをずっと持ち続け

林正樹(高23回)



中学校時の担任が福高出身で無類の蝶好き、しかも生物部だったことに影響され、私は福高入學と同時に生物部に所属しました。当時は道具類も十分ではなかったので、蝶中心の活動はできず、3年時の对外発表には、甲虫の仲間で毒を持つハネカクシをテーマにしま

した。けれど、その頃に生物部の後輩と野外採集に出かけて手に入れたシジミチョウは、今でも私の宝物です。

転勤族となつてからは、北海道や北陸などにも生息する蝶が移りました。活動範囲も広くなり、対象を絞る必要もあつたので、休日日帰りの蝶採集を中心として会社を引退する

数年前、退職後何をするかと考えた結果、自然の素晴らしさを紹介する

「県立ぐんま昆虫の森」

(桐生市)のボランティア

活動をやることに決め、群馬に移り住みました。

最近は、羽化の瞬間や野外での写真を撮るなどして楽しんでいます。ここ

ではメタリックの美しさだけ述べましたが、皆さんの近くにいる、例えば

アオスジアゲハでも、良

く見ると素晴らしい美を

感じると思います。

ではメタリックの美しさだけ述べましたが、皆さんの近くにいる、例えばアオスジアゲハでも、良

く見ると素晴らしい美を

感じると思います。

第二には、昆虫全般に

言えますが、そのバラエ

ティー。分布や性質、色彩

の面白さ、不思議さです。

こう言うと特定のものを狙うマニアのようですが、私が感じたのは違う意味

です。

分布は植物に依存する

ところが大きいのですが、

最近の温暖化によって植

生が変わり南方系のナガ

サキアゲハ等が群馬にま

で分布を広げています。

在校生の東京研修も昨

年で4回目。10月27・28日、

一年生108名が東大

外務省、国交省、企業のJ

Xを見学した。また卒業

生の大学生を講師とする

座談会に参加し、進学、就

職など進路の決定に有益な指針を得た。

さらに今回は、研修の受入れに初回から協力さ

れている東大東洋文化研究所准教授の森本一夫さ

ん(高40回)の講話を研修

生と共に聞いた。

森本さんは、ムスリム

として人為的変化とも言

うべきか、庭先にパン

ジーを植える人が増え、

同じく南方系だったツマ

グロヒヨウモンも群馬で

よく見られるようになります。また、大移動する

アサギマダラは群馬から

沖縄まで移動したことが

調査でわかつていますが、

幼虫時代に食べた食草の

毒(苦い成分)が体に蓄積

していく鳥が食べないら

しく、緩やかに飛ぶ性質

を持つっています。類似種

のカバマダラも毒を持つ

一方、それに模様が似て

いるツマグロヒヨウモン

は毒を持たないので、そ

の姿で生き続けている、と

なっています。そして、そ

の活動が、多少なりとも

公のお役に立つており、

自然に親しもうとする人

の輪を広げているように

感じています。別の見方

をすれば、中学・高校の

先生やクラブ活動の延長

線上に、会社勤めが終

わった今の私の生活があ

り、生きがいにつながっ

ています。

いうのも自然の不思議で

あります。多分、自然界では淘汰

のなかで色彩が似たものが

生き残ったのでしょうか。

そのほか、知れば知るほど興味が広がり、ボラ

ンティア活動の中で多く

の昆虫に目がいくよう

になります。

東北勤務時に、偶然にも

その蝶が正面の追飛行動

を行っているのを見つけ、

その輝きの素晴らしさに

唖然としたことを覚えて

いました。

林正樹(高23回)

（2015年3月1日）



NHKニュース(2011年6月28日)より

その第一は、モルフォ蝶に代表されるメタリックな輝き。タマムシの輝きも同じですが、これは構造色です。そして、その輝きを持つたシジミチョウ

の第一は、モルフォ蝶に

の作業状況がテレビ取材を受けたこともあります。

さて、表題の「蝶に魅せ

られて」に戻り、その美しさ、不思議さを紹介したいと思います。

その第一は、モルフォ蝶に

の作業状況がテレビ取材を受けたこともあります。

さて、表題の「蝶に魅せ

られて」に戻り、その美しさ、不思議さを紹介したいと思います。

その第一は、モルフォ蝶に

の作業状況がテレビ取材を受けたこともあります。

さて、表題の「蝶に魅せ

られて」に戻り、その美しさ、不思議さを紹介したいと思います。

さて、表題の「蝶に魅せ